

## 令和6年度第1回焼津市立小学校及び中学校通学区域審議会 会議録

- 1 日 時 令和6年8月1日（木） 15時30分～16時20分
- 2 場 所 焼津市役所本庁舎1階会議室1B
- 3 出席者（15人）
  - (1) 審議会委員  
藁科善彦会長、嶋芳正副会長、清水敬明委員、山下拓馬委員、石川美香委員、武藤裕子委員、小長谷恭彦委員、大場光雄委員、渡邊徹委員、本間布美子委員
  - (2) 事務局  
羽田明夫教育長、増井太郎教育部長、嶋美津子教育総務課長、寺尾正幸学校教育課長、鷺野誠主席指導主事、池ヶ谷久子主幹、田宮香澄主任主事
  - (3) 傍聴者  
なし
- 4 協議事項
  - (1) 児童生徒数の推移・比較について
  - (2) 焼津市南部土地区画整理事業換地処分に伴う学区改正について（報告）
- 5 結果及び確認事項等
  - (1) 児童生徒数の推移・比較について  
小中学校とも全体的に学級数が減少の方向にある
  - (2) 焼津市南部土地区画整理事業換地処分に伴う学区改正について（報告）  
学区改正についての経過報告
- 6 議事

### <藁科会長>

それでは議長の職を務めさせていただきます。  
また、議事録署名人は、石川委員と武藤委員にお願いいたします。  
議事がスムーズに進行しますよう委員の皆様にはご協力をお願いいたします。  
なお本日は、委員全員が出席していますので、本審議会は成立しています。  
それでは、次第に従い協議事項1の「児童生徒数の推移・比較について」を議題とします。事務局からの説明をお願いします。

### 【協議事項第1号】

### <学校教育課長>

- ・小中学校の児童生徒数及び学級数の推移の求め方の説明

- ・各小学校区の0歳～11歳の人数の報告
- ・各小学校の令和7年度～令和12年度の学級数の予測値の報告
- ・各中学校区の0歳～14歳の人数の報告
- ・各中学校の令和7年度～令和18年度の学級数の予測値の報告

<藁科会長>

ただいま、「児童生徒数の推移・比較について」説明がありましたが、質問を含めご意見はありますか。

<渡邊委員>

単学級の弊害について、事務局がどう捉えているか伺いたい。

<事務局>

単学級になりますと、学級の編制、クラス替えを行うことができなくなりますので、もし1年生が単学級でスタートしますと、転入がなければそのまま、人間関係が固定化してしまうということがあります。

ただ、その人間関係が固定化してしまうことが、マイナスの面もあるとは思いますが、それだけ長い間、同じつきあいで行くことによる深まりという部分では、プラス面もあるのかなと考えておりますし、学校の規模が小さくなることにより、丁寧にそれぞれの子供1人を見ることができるといようなプラスの面もあるかもしれませんので、今後、どういうことに注意し学校運営をしていけばいいかということも含めて考えていく必要があると思っております。

<嶋委員>

港学区が減っていない要因は何かわかりますか。

<事務局>

一時期は、東日本大震災以降、港学区から転出する児童生徒数があったように思いますが、その後、他の地区に転出される方が増えていないということが要因かと思われまます。焼津市は子育て支援ということでいろいろな施策を打っておりますので、そういうことで焼津市外から転入する児童生徒の数が増えていけばと思っております。

<大場委員>

豊田地区は建売住宅が多く出来てきました。焼津に移住してもらい、焼津はいいところなので来てください、ということをやっていないと、どんどん人口が減っていくのではないかと思います。

<事務局>

焼津の教育の良さを含めて、情報発信を進めてまいりたいと思います。

<清水委員>

単学級の場合、小中学校を通して9年間、1学級で過ごすケースもあり得ます。テレビなどで見る、山の分校などの良さもあるわけですが、変化に乏しく、息が詰まるということもあると思います。良さも十分堪能できるが、変化を求める多感な年頃に教育をマッチングさせるのは難しいと思う。だから今までのスタンダードの教育とは違う教育を、どのように教育経営をしていったらいいか、ということの研究を始めることが必要なのではないかと考えます。その研究成果が、そのときに生きてくるのではないのでしょうか。

また、規模が小さいと、教員の配置が少ないけれども一つの学校として運営をするので学校の負担が増えてしまい、その学校の校長や教頭は苦勞するのではないかと。予算の配分も含め、その点も考えていかなければ教育の質は保てないと考えます。

<事務局>

ご意見いただいたように、学校経営そのもののあり方とか学習のあり方、それから予算や教員配置についても、現在の加配という標準の定数で決まった数プラス加配という形で先生を配置するということもありますが、それをどう学校に配置するかということも含めて今後研究を進めてまいりたいと思います。

**【協議事項第2号】**

<藁科会長>

次に、協議事項2の「焼津市南部土地区画整理事業換地処分に伴う学区改正について（報告）」事務局から説明をお願いします。

<事務局>

- ・令和5年度の学区審議会で答申案を承認いただいた後、定例教育委員会での承認、周知も含めた学区改正までの経過を説明
- ・学区改正（令和6年7月13日）に伴い、変更地域にお住まいのご家庭の保護者あてに、新旧いずれの学区の学校を希望するかについて意向調査を行っていること（対象となる児童生徒は27人）、小学校新一年生については、就学時健康診断の案内通知の際に、意向調査を行うことを説明（対象は、令和6年3月末現在で5人）。

<藁科会長>

ただいま、「焼津市南部土地区画整理事業換地処分に伴う学区改正について」説明がりましたが、ご質問がありましたらお願いします。

<嶋委員>

私たちの自治会は14自治会になります。自治会の方も、個人の意思でどちらに所属するか、という案内をしています。どうしても自治会を異動したい、という方たちもある程度いらっしゃいます。理由はいろいろありますが、学区も関係しています。他の自

治会とも連絡を取り合って、来年の4月で自治会の異動をお願いしています。このような動きをしております。

<藁科会長>

現状を報告してくださった、ということですね。ほかにありますか。

<小長谷委員>

先ほどの説明で、対象が17世帯、30人弱ということで、大きな変更をせずに、最小限の影響にとどめて学区が設定されたことに感謝を申し上げたいと思います。

<藁科会長>

それでは経過報告でいうことでもありますので、協議事項についてはここまででよろしいでしょうか。ほかに、何かありますか。

<清水委員>

先日、全国学力状況調査がありましたが、焼津市はどのような状況だったのでしょうか。

<事務局>

本日お話できればよかったですのですが、8月にかけて細かな分析の後、公表というスケジュールになっておりますので、今しばらくお待ちいただくとありがたいです。

<清水委員>

令和7年度は、タブレットを使ったオンラインのテストという、非常に画期的なやり方に変更していくわけですね。情報化の時代で、そういうことへの取り組みや教育の推進をどう考えていますか。

<事務局>

昨年度の全国学力学習状況調査の数値になりますが、授業でどれぐらいICTやパソコンを使っていますか、という質問項目があり、焼津市は全国に比べかなり高い値になっています。先生方が普段からタブレットを使って授業を行っているということで、こちらにつきましては、焼津市教育委員会の学校教育課内GIGAスクール推進室を設け、各学校を訪問しながら学校での活用について、進めてまいりましたので、焼津市については着々と進んでいると考えております。

<藁科会長>

では、ほかに無いようですので、進行を司会者にお返しします。

<事務局>

藁科会長、ありがとうございました。

では、事務局より2点ご連絡させていただきます。

まず、本日の審議会の議事録につきましては、焼津市のホームページに掲載をする予定でございますので、ご承知おきいただければと思います。

次に、次回の学区審議会は、来年2月5日の水曜日を予定しておりますが、協議事項が特に無い場合は開催しません。開催をする場合は、年明けに改めて皆様方に通知をさせていただきます。年明けに通知がなければ、次回はないというふうにご判断いただければ、と思います。

委員の皆様、他に何かありますか。

(なし)

では、以上をもちまして「令和6年度第1回焼津市立小学校及び中学校通学区域審議会」を閉会いたします。委員の皆様ありがとうございました。

署名人

---

---